

第13回浦和区区民会議 議事録（確定版）

1 日 時：平成18年10月19日（木） 18:30～21:00

2 会 場：さいたま市民会館うらわ 503 会議室

3 出席者（敬称略）

団体推薦：新井幸芳（青少年育成さいたま市民会議）、大関豊壽（浦和歯科医師会）、小原茂（浦和区自治会）、柿塚一二三（浦和区民生・児童委員協議会）、坂本和哉（浦和区自治会連合会）、坂場きみ（地区社会福祉協議会）、大工原潤（元市民懇話会）、中島昌男（さいたま市薬剤師会）、東一邦（さいたま NPO センター）、吉野勝則（さいたま市 PTA 協議会浦和区連合会）

公募委員：樋田範子、岡野昭夫、山本信子

コミュニティ会議委員：秋山忠一（総合型地域スポーツ・レクリエーションクラブ「北浦和ふれあいプレイランド」）、岡田唯文（コミュニティキャンパス浦和）、丸山繁子（さいたま市リサイクル女性会議・浦和）、吉岡基代（浦和区四星会）、渡辺修（中山道浦和宿二七の市実行委員会）

事務局：新藤茂（区民生活部長）、磯部弘（健康福祉部長）、野村宏（区民生活部コミュニティ課長）、日野徹（同課長補佐）、金子秀行（同主幹）、吉田博昭（同副主幹）、大嶋幸子、小宮慶太（同主任）、池田麻美子、竹村真（同主事）

運営補助：福田律子（システム科学コンサルタンツ㈱）

4 次第

1 開会

2 議事

(1)コミュニティ会議について

(2)各部会からの報告について

(3)市政への提案・要望について

(4)その他

3 閉会

5 内容

□議事概要□

(1) コミュニティ会議について

- ・新たな認定団体である「上木崎・大原グリーンコミュニティ」(平成 18 年 8 月 31 日認定)、「影絵グループ『花』」(同年 10 月 16 日認定) が事務局から紹介された。
- ・本年 9 月までに補助申請のあった新規申請 1 団体、継続申請 3 団体の事業計画の説明および質疑応答は次のとおり。

① (新規)「与野駅東口広場のグリーンコミュニティ事業」(上木崎・大原グリーンコミュニティ)

(団体からの説明)

- ・与野駅東口駅前広場に現在設置済みフラワーポットに加え、新たに 10 個のフラワーポットを設置して歩行者通路を確保し、高齢者や障害のある人々が使いにくくなっている現状を改善するための事業である。ポットに植える花は、大原中跡地で自分たちで栽培することになっている。現在はコミュニティ会議メンバーで活動しているが、今後は、地元の花の愛好家や小中学校にも声をかけて、交流を深めたいと考えている。費用は趣旨に賛同する人達からの寄付金と区補助金でまかなうこととして、花を育てる花壇や駅前に立てる看板の作製などに充てる。

(部会長説明)

- ・部会の心配ごととしては、申請では活動予算が補助金のみでまかなわれている点で、「自立的、持続的に活動していくために、花一杯運動をやっている市民など、協働の相手を探すとよいのではないか」という意見があった。これに対して、「公園みどり課から紹介された針ヶ谷のグループとの連携ができないか検討中であるほか、小学校のボランティア活動との連携を図るため、校長先生と話をしており、さらに、自治会との連携も考えていきたい」との回答があった。
- ・部会からはこのほか、浦和駅東口の例に見るように、「この事業によって駅前からは放置自転車がなくなっても、結局、近くの別のところに放置されることになり、根本解決には至らないのではないか」という意見、「グリーンベルトをつくっても必ずしも歩行者がそのとおり歩くわけではなく、歩行者の動線が改善されない危惧があるのではないか」という意見があったが、「休日は近くに有料駐輪場があるのに駅前に止められているし、平日は指導員がいても放置されてしまうといった状況を改善することに、少しでも貢献していきたい」とのことで、部会としては新しい団体の新しい活動が長く続けられることを期待しつつ、計画に異論なしとした。

(質疑応答)

- 委員：フラワーポット位置図が添えられているが、看板はどこに置かれることになるのか。
- 団体：駅前広場正面の見やすいところで、フラワーポットの間あたりに設置できればと考えている。
- 会長：看板には「浦和区コミュニティ会議に認定された団体」という内容も盛り込んでいた

だきたい。

団 体：コミュニティ会議認定団体であることを盛り込んだ文面を、現在、浦和区コミュニティ課と調整しているところで、適切なものにしていきたい。

会 長：では、区民会議としても部会同様、異論なしとすることでよいか（会場から拍手）。では、今後のご健闘をお祈りする。

事務局：次の3団体の事業については、運営部会長から一括して報告していただく。

（部会長報告）

①浦和区本太元町地区3世代交流実行委員会：親子地域親睦グランドゴルフ大会および三世代ふれあい会について

- ・この事業は今年4回目の申請となり、活動の内容はご存知と思う。部会からは、「今年4年目ということで自立を考えていく時期であるが、その方向性はどうか」という質問があり、「以前から長く地域で取り組んできた事業であったが、補助金を活用して規模を拡大して実施するようになった。一度、拡大するとなかなか縮小するのは難しいが、経費の節減には努めている。今後はバザーを開催するなどの工夫を考えたい。いずれにせよ、地域でまとまって実施する行事は大切なので、予算がなくなったのでやめました」ということにはしない」との説明があり、部会としては異論なしとした。

②岸町地区コミュニティ会議：岸町地区調公園ふれあいまつり

- ・岸町地区コミュニティ会議ではこれまで「ふれあいコンサート」を実施してこられ、その内容は皆さん、よくご存知だと思う。今年度はコミュニティ会議の活動が4年目に入り、自立が求められることや、マンネリ化の反省もあって、これを機に事業内容を刷新し、コンサートや「親子であそぼう」のほか、身近な防犯などの相談ができる「地域なんでも相談」が盛り込まれている。コンサートについては「ふれあい音楽会」と名称を改め、地元小学校や浦和一女、浦和商业高校、ハーモニカバンドなどによる演奏会を開催することとしている。予算面では補助金削減に対応するため、楽器運搬のためのトラック借上げをやめ、自前で運んでもらいガソリン代相当を支払う方法に変えるなどの対応をしている。
- ・団体からは、「これ以上の補助金の削減となると、野外音楽会のための会場設営費が捻出できず、開催が不可能となるので、削減については再考をお願いしたい」との強い要望があり、部会からは「事業内容はとても良いので、自治会や商店街、地元の企業などスポンサーをみつけたり、模擬店を開くなど、何とか方策を考えていただきたい」と提案した。団体からは、「ご意見を参考に努力をしていくが、削減についても再考をお願いしたい」と重ねてのご要望があった。以上の質疑応答ののち、事業計画については異論なしとした。

③紙こぼこ：「針ヶ谷郷土かるた」の作成とこれによる地域コミュニティの活性化

- ・この事業は、昨年度、試作品10セットの郷土カルタを作成しておられ、今年度は2年目である。子どもたちからも好評で、郷土文化に親しむことに役立っていることから、今年度は本格的に100セットを作成するという内容である。カルタは小・中学校や自治会、公民館などに配布するほか、団体が行う行事に使ったり、希望者に貸し出したりするそうである。また、作画に協力してくださった漫画家との関係から、大宮区にある「漫画会館」

にも収蔵されるとのことであった。

- ・部会からは、「1セット1000円程度までに抑えられれば、実費で分けてほしいという人がいるのではないか。それが出来れば、事業費の一部もまかなえる」「子どもたちの情操教育にも役立つので、もっとたくさん作成するのであれば1セットの単価も下げられる」といった意見があったが、補助金で製作したものを販売することはできないと事務局からの返答があった。また、「名所、旧跡など地域の文化資源の保存に取り組む団体がいろいろあるので、これらと連携して、活動に役立てて欲しい」「浦和区全体に広がったカルタができればもっといい」といった意見があった。以上の質疑応答を経て、事業計画については異論なしとした。

(質疑応答)

会 長：いずれも運営部会で真剣に検討した結果であり、区民会議としても、運営部会同様、異論なしとしたいが、いかがか(会場から拍手)。では、異論なしとする。

(2) 各部会からの報告について

①企画部会

- ・企画部会では11月7日の視察について検討した。視察先のメインは午後に訪問する港北区の大倉山商店街のエルム通り商店街であるが、午前中は、MM21地区で市民活動支援センターやMM21地区の街並みの見学などを行い、ランドマークタワーで昼食とする。市民活動支援センターは、あいにく、センターの責任者が休暇のため、職員の方に簡単な質問ができる程度であるが、さいたま市でも市民活動支援センターの開設準備が進められているところであり、見学だけでも参考になると思う。
- ・大倉山商店街の一つ、エルム通り商店街はギリシャ風の街並みを商店街の力で作り上げた事例であり、当日は商店街の責任者の方から説明をいただく。そのほか、障害者の小規模作業所となっているギャラリー併設の工房や大倉山記念館などを見学する行程である。

(質疑応答とくになし)

②広報部会

- ・過日、区民会議だより第2号を無事発行した。今年度は2回発行のため、ページ数を第1号の半分にして経費を抑えた。内容としては、コミュニティ会議を知り、志して欲しいと考えて、コミュニティ会議のイベントへの呼びかけを中心に編成した。次号は3月発行予定である。
- ・「コミュニティの広場交流・発表会」は2月17日(土)午後1時から3時半に開催する。本年は3回目になるので、進め方を変えたいと考えている。体制は、区民会議全員が実行委員会に入り、事務局を広報部会で担うこととした。すでに役割分担も実行委員会事務局で作成したので、ご協力をお願いします。第1期からの委員が引退したあとも、円滑に続けられるよう、コミュニケーションをとりながら進めていきたい。第1回実行委員会は次回区民会議のあとに引き続き開催するので、ご出席をお願いします。
- ・コミュニティの広場広報啓発事業は、来年3月24日に二七の市が開催されるという前提

で検討中である。これまで実施してたくじ引きはやめ、コミュニティ会議の実演を充実したいと考えている。

(質疑応答)

委員：交流発表会の予行演習はあるのか。

部会長：予行演習はない。当日の設営などについては第1回実行委員会で説明する。

(3) 市政への提案について

会長：市政への提案について、事務局説明をお願いします。

事務局：本日、「市政に対する提案・要望」についてご意見を記入していただく用紙を配布したので、11月10日(金)までに事務局にご提出いただきたい。皆様からの提案を企画部会で精査いただき、その結果は次回全体会で企画部会長からご報告いただくこととしたい。

(質疑応答とくになし)

□その他□

(労働基準監督署跡地について)

委員：県の労働基準監督署跡地に複合型福祉施設が整備されると聞いたが、区コミュニティ課でわかる範囲で、その内容を教えていただきたい。

事務局：高齢者福祉センターと児童センターの複合施設という方向で考えられており、平成20年度開所に向けて事業を推進中と聞いている。

(コミュニティ会議事業の成果物の有償配布について)

委員：補助金で作成した成果物は有償で配布できないという説明をこれまでも聞いてきたが、どういう根拠に基づくものだろうか。作るのに1000円かかるものについて、半額分を補助金で、残る半額分は有償配布でまかなうということはできないのだろうか。そのほうが自主性という点で優れている。NPOの活動のために補助金、助成金を活用しているが、いろいろなやり方があるようだ。是非、行政のほうで制作費の一部を販売でまかなうことができる道を探して、アドバイスする、そういう姿勢で臨んで欲しい。

(事務局からの連絡事項)

- ・文化の小径づくり推進委員会が8月31日に発足し、マップの仕様の検討、コースの設定などを話し合う会議を2回開催するとともに、設定したコースを実際に歩く現地踏査などを行った。今後は、現地踏査の結果を参考にしながら、マップ作成を進めていただくことになる。
- ・前回提案をお願いした、予算編成に対する要望は2件提出があった。1件は、団塊の世代が退職し地域にもどってくることから、地域社会へのきっかけづくりとなるよう、コミュニティ会議やNPO、各種市民団体との交流会を開催してはどうかとの提案で、区としても時宜を得たもので、取り組むべき事業であると考えている。もう1件は、平成15年に区民意識調査を実施してから4年が経過したので、区民意識調査を実施してはどうかとの提案で、区としても浦和区魅力あるまちづくりプランの見直しのためにも意識調査が必要であり、5年ごと

に実施したいと考えていることから、次回平成 20 年度実施で検討しているところである。

- ・第 3 期の区民会議公募委員の募集のため、市報 12 月号の区版やホームページへの掲載、公共施設への募集案内の配布を 12 月から行う。募集人員については、第 2 期と同様、5 名程度を予定している。
- ・岩槻区区民会議主催の「人形供養祭と岩槻の史跡めぐり」のチラシ、コミュニティ会議認定団体アシスト浦和 21 主催の「第 3 回わくわく浦和いきいき祭り」のチラシを配布したので、ご希望であればご参加ください。

□次回開催予定□

- ・次回は 12 月 16 日（土曜日）市民会館うらわ 503 にて、14 時から区民会議全体会、16 時半からコミュニティの広場実行委員会を開催する。

以 上